資料番号	２

令和８年３月５日
課　名　農林水産局農業生産課
担当者　課長　出原
内　線　３５９０

農林水産物の生産等概況について

１　要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

２　現状・背景

―

３　概要

(1)　調査対象

卸売市場、出荷団体等

(2)　調査期間

令和７年 10 月～令和８年１月（※一部の品目については、令和７年９月から 12 月）

(3)　調査結果

ア　農産物

(ｱ) 普通作物の生産状況

水稲

令和７年産の県内の主食用米の作付面積は 20,200ha で、前年産に比べて 100ha 増加した。

作柄については、５月下旬の気温が前年を下回ったものの、穂数は前年並みに確保された。また、６月下旬以降は概ね天候に恵まれたことから、全もみ数は前年を上回り、「作況単収指数※」は、「104」となった。

令和７年産の県産米の 12 月までの価格は、民間在庫量が増加しているものの、生産者からの買取価格の高騰の影響もあり、前年比 157%で推移している。また、全国のスーパーにおける直近の店頭価格は、前年比 113.7%で推移している。

令和８年産の生産の目安については、県産米の堅調な需要が見込まれることなどから、県農業再生協議会において、令和７年産の予想収穫量とほぼ同等の 109,957ｔと設定している。

※　作柄は、６年産までは「作況指数」で示されていたが、７年産からは「作況単収指数」に変更された。
※　「作況単収指数」とは、10a 当たりの収量の前年産までの５か年中中位３年平均に対する当年産との比率。

(ｲ) 野菜の生産状況

野菜全般において、10 月中旬までの猛暑及び少雨の影響により生育不良が多く見られるとともに、特に秋に定植する露地野菜では、定植時の少雨により活着が悪かったことから、生産量が減少傾向で推移している。

ａ　キャベツ

庄原市や北広島町、尾道市、呉市等から出荷されている。

定植時の猛暑の影響により、数量は例年より少なく推移している。

単価は、例年並みで推移している。

ｂ　トマト

11 月までは神石高原町や庄原市、北広島町から、また、12 月からは呉市等の県南部から出荷されている。

数量は、例年並みで推移している。

単価は、他県産地からの出荷が遅れたため、11 月は例年の２倍程度高く、12 月からは例年並みで推移している。

c　青ねぎ

安芸高田市の養液栽培や、庄原市等の土耕栽培の産品が流通している。

数量は、例年より１割程度多く、単価は例年並みで推移している。

d　ほうれんそう

主に庄原市や北広島町等の県北部で生産されたものが流通している。

猛暑の影響により、数量は 11 月まで例年より２～３割程度少なく、12 月は例年並みで推移している。

単価は、11 月までは例年より高く、12 月からは例年並みで推移している。

e　こまつな

広島市、安芸太田町を中心に生産されたものが流通している。

数量は、11 月までは例年並み、12 月からは例年より多く推移している。

単価は、11 月までは例年並み、12 月からは例年より低く推移している。

(ｳ) 果樹の生産状況

a　うんしゅうみかん（ＪＡ広島果実連扱い）

販売開始は例年並みで、極早生みかんが 10 月 7 日、早生みかんは 11 月 7 日、いしじ及び普通みかんは 12 月 2 日から出荷・販売された。

品質は、食味は薄味となっているが、果実肥大は良かった。本県では表年にあたり、販売数量は、極早生みかん、早生みかんを中心に前年より上回った。

販売単価は、国産みかんの市場入荷数量が多かったことから、前年より安値となっている。

※　数値はＪＡ広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。普通みかんの令和７年産については、令和８年１月までの実績（販売数量、販売単価）及び令和８年１月時点での販売数量見込み（点線）

b　レモン（ＪＡ広島果実連扱い）

作柄は前年並みで、果実肥大も良好なことから、販売数量は前年並みを見込んでいる。販売単価は、前年より安値で推移している。

※　数値はＪＡ広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。令和７年産については、令和８年１月までの実績（販売数量、販売単価）及び令和８年１月時点での販売数量見込み（点線）。

c　中晩柑類（ＪＡ広島果実連扱い）

中晩柑類については、着果量は多く、果実肥大は良好なことから、販売数量は前年を上回るものと見込んでいる。

全体的に食味が薄く、前年産より安値傾向で推移している。

※　数値はＪＡ広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。令和７年産については、令和８年１月までの実績（販売数量、販売単価）及び令和８年１月時点での販売数量見込み（点線）。

(I) 花きの生産状況

a　きく

庄原市、三次市、江田島市等で生産されたものが流通している。
10 月までの猛暑の影響により、数量は例年より少なく推移している。
単価は例年並みで推移している。

b　ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市で生産されたものが流通している。
数量は例年より少なく、単価は例年より高く推移している。

イ　畜産物の生産状況等

(ｱ) 和牛

出荷頭数は、前年を下回って推移している（前年比 59～90%）。

枝肉単価は、前年に比べ高値で推移し、年末の最需要期までは引き合いが堅調であった（前年比 100～108%）。

※　「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢Ａ４でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(ｲ) 和牛子牛

出荷頭数は、前年を下回って推移している（前年比 86～88%）。

取引価格は、全国的な子牛不足の影響や、肥育牛の年末出荷にともなう引き合いが続いていることなどを受けて、前年を大きく上回って推移している（前年比 135～145%）。

※「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ｳ) 交雑牛

出荷頭数は、月により変動はあるものの、前年を下回って推移している（前年比 89～103%）。

枝肉単価は、前年をやや上回って推移している（前年比 100～104%）。

※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢 B3 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(ｴ) 豚

出荷頭数は、県外からの出荷頭数が増えたことから、引き続き、前年を大きく上回って推移している。

枝肉単価は、前年並みで推移している。

※「広島市中央卸売市場食肉市場」のと畜頭数
※「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(ｵ) 鶏卵（全農ひろしま　M）

鶏卵の単価は、高病原性鳥インフルエンザの感染が相次いだ影響で、全国的に卵の供給量の減少が続いていることから、前年を大きく上回っている。

※「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(ｶ) 酪農

生乳生産量は、前年を下回って推移している（前年比 89～95%）。

生乳の販売単価は、令和７年８月に飲用向け乳価の引上げがあったため、前年を上回って推移している（前年比 103%）。

※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合聞取りで手取り乳価。

(ｷ) 飼料等価格

配合飼料の価格は、穀物相場や円安等の影響で、月により増減はあるが、依然として高値が続いている。

粗飼料の価格についても、下落傾向にあるが、依然として高値の状況となっている。

ウ　林産物

木材の生産状況

ヒノキの集荷量は、９月以降、国有林や森林整備センター等からの出材があったため、前年に比べ高い水準となっている。

販売単価は、３月を中心に原木の出材が不足していたことから、高めに推移していたが、住宅着工数の減少から製材工場の集荷量が落ち込みつつあり、前年並みとなっている。

※　広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの集荷量及び販売単価

エ　水産物

(ｱ) 水温

１月上旬の県内海域 32 点の表層水温は 11.4～14.8℃で、平年差は+0.3～+1.4℃であった。

海　域	広島湾	安芸灘	備後灘
１月上旬の水温 平年差	12.4～14.7℃ +0.3～+1.4℃	13.2～14.8℃ +0.7～+1.1℃	11.4～14.4℃ +0.5～+1.3℃

(ｲ) 漁獲状況

a　取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 18 品目の取扱数量は、サワラ、サゴシ、キジハタの３品目で平年よりも 50%以上増えた。一方、７品目で平年よりも 50%以上減少した。

b　取扱単価

県内産の取扱単価については、18 品目中 10 品目で平年よりも 20%以上高かった。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（Ｒ７.12）

品　目	市場全体						県内産					
	数量			単価			数量			単価		
	kg	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	kg	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	41,714	106	91	971	102	100	14,417	114	102	885	107	103
スズキ	12,315	105	72	654	101	114	8,262	121	75	648	101	125
カワハギ	7,905	72	32	3,437	115	260	5,529	67	85	4,444	124	210
タコ	8,708	119	52	2,449	99	131	3,385	139	71	2,718	97	138
クロダイ	7,422	180	147	400	90	97	6,727	171	146	408	90	96
コウイカ	3,437	75	58	913	101	135	2,782	86	84	980	98	132
アナゴ	36,697	104	83	2,095	94	114	2,967	101	89	1,469	103	98
シタビラメ	3,217	115	55	1,228	101	132	1,836	94	42	1,174	101	131
ナマコ	19,096	93	45	1,895	92	106	483	94	28	1,934	30	72
サヨリ	1,061	19	21	1,037	133	113	747	39	31	896	245	113
ヒラメ	8,085	120	84	2,643	100	124	687	106	68	2,190	89	104
サワラ	14,515	103	81	1,636	105	114	2,234	92	230	1,617	99	124
サゴシ	8,249	95	52	783	106	147	1,006	169	222	863	97	120
キジハタ	651	182	135	1,718	59	74	537	262	180	1,721	72	77
カサゴ	862	146	49	998	90	124	434	189	36	936	101	122
ガザミ	949	115	36	4,421	75	98	292	84	45	2,410	88	83
オコゼ	258	93	29	3,497	92	145	102	96	16	3,281	124	155
メバル	3,428	172	51	1,911	93	123	439	247	32	1,945	80	126

※　平年値は平成27年～令和６年の平均

※　数量　：　平年比50%以上増　　単価　：　平年比20%以上増

※　数量　：　平年比50%以上減　　単価　：　平年比20%以上減

c　煮干共販実績

煮干し（いりこ、ちりめん）については、販売数量は平年並みだったものの、単価が高かったことから、共販額は平年比 128%の約 26 億円（１月末時点累計）となっている。

広島県煮干共販出荷実績（１月末現在累計）

区　分	数量（ｔ）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和７年度 （平年比）	2,531 （107%）	2,660,932 （128%）	1,051 （119%）
平　　年	2,370	2,084,594	880

※　平年値は令和２年度～令和６年度の平均（１月末時点累計）

(ｳ) 養殖状況

a　かき養殖

むき身の出荷については、近年の成育の遅れや、かき殻排出抑制の点から、例年より３週間遅れの 10 月 20 日から始まった。

へい死が多かったことから、10、11 月に出荷していた生産者は少なく、また、むき身重量は平年並みであったが、出荷者が増えた 12 月以降は平年を下回った。

その後も、むき身重量は平年を下回って推移しており、生産者からの聞取りでは、12 月は水かき様態が多かったが、１月後半からは徐々に身入りが良くなってきているとのことである。

広島県かき成育状況調査結果（２月調査）

区　分	平均むき身重量（g/個）	平均単価（円/kg）
令和７年度 （平年比）	14.7 （91%）	1,180 （156%）
平　　年	16.2	755

※　平年値は平成 27 年度～令和６年度の平均（２月調査）

b　のり養殖

今期は水温が高く、採苗に若干遅れが出たものの、1月中旬から出荷が始まっている。

共販数量は、平年比95.4%で推移しているが、全国的にも生産が安定していることから、平均単価は78.9%と平年を下回っており、共販金額も平年の75.3%となっている。

広島県乾のり共販出荷実績（2月12日現在累計）

区　分	数量（千枚）	金額（千円）	平均単価（円/枚）
令和7年度 （平年比）	26,413 （95.4%）	259,980 （75.3%）	9.84 （78.9%）
平　　年	27,686	345,270	12.47

※　平年値は平成27年度～令和6年度の平均（2月11日基準）